

多古町地域経済活性化拠点整備事業の経緯

事業概要

圏央道の開通や成田空港の更なる機能強化を背景に、国内外からの交流人口の増加による経済効果を取り込みつつ、官民連携により交流人口の拡大を図るとともに、多古町の第一次産業の可能性を最大限に引き出し、経済活性化と地域課題解決を目指すものです。

【令和4年度執行済事業費】

事業費	内容	金額(円)
計画策定等業務委託	整備計画の策定	1,650万円
設計業務委託	拠点施設の設計	1,595万円
その他の経費	測量・地質調査・文化財試掘ほか	960万2,000円
計		4,205万2,000円

【令和5年度当初予算額(未執行)】

事業費	内容	金額(円)
工事請負費	拠点の建築・外構工事	4億8,000万円
その他の経費	工事監理業務ほか	452万5,000円
計		4億8,452万5,000円



拠点のイメージ

※プロポーザルとは…企画競争により事業者を選ぶ方式。「価格競争」で選ぶ入札方式とは異なり、価格以外にも重視するもの(デザイン、設計、マーケティングなど専門的な技術)がある場合、「企画提案書」の提出を求め、最適な提案者を選ぶ。

令和4年6月

【6月定例会】

多古町地域経済活性化拠点整備事業関係予算を含む一般会計補正予算 **可決**

7月

測量業務委託契約を締結
地質調査業務委託契約を締結

8月

多古町地域経済活性化拠点整備計画策定等業務委託契約を締結

12月

公募型プロポーザルにより業者が決定
多古町地域経済活性化拠点設計業務委託契約を締結
多古町地域経済活性化拠点設計監理業務委託契約を締結

令和5年1月

地域課題解決及び経済活性化に関する協定を〔株良品計画・株和郷・有ジェリービーンズ〕と締結

3月

埋蔵文化財試掘業務委託契約を締結

株良品計画より、地域経済活性化拠点への出店協議を進める旨の通知受領
※出店を確約するものではありません

【3月定例会】

多古町地域経済活性化拠点整備事業関係予算を含む令和5年度一般会計予算 **可決**
※建設工事費4億8,000万円

3月定例会期間中に建築工事受注候補者より現状の建設工事費として約7億8,000万円の見積書が提出された

5月

元々の要求水準に基づき工事内容を再検討
最終的な建設工事費約5億5,600万円の見積書が提出された

【5月臨時会】

物価上昇に伴う工事請負費増額分7,600万円を含む一般会計補正予算 **否決**

株多古取締役会において多古町地域経済活性化拠点への投資を承認
※本体と関わらない駐車場等の工事を株多古が発注する

6月

【6月定例会】

契約の締結について「多古町地域経済活性化拠点建築工事請負契約」「多古町地域経済活性化拠点外構工事請負契約」※当初予算内での工事請負契約 **否決**

契約に疑問

反対 橋本孝之議員

契約の締結にあたり、この事業はぜひともやるべきものであり良いものを作ってほしいと考えます。
しかし、契約にあたり非常に疑問を感じています。プロポーザル上限価格は4億6800万円。業者は11月提案時4億2300万円。3月には同じ工事内容で約7億8000万円に。その後仕様を落として5億5600万円と、なんのためプロポーザルだったのでしょうか。積算や事業計画の大雑把が見受けられ、さらに事業計画を見直す必要があります。

最重要課題に取り組める計画

賛成 萩原宏紀議員

人口減少、特に若者人口が流出し続けている多古町のこの危機的現状を再度認識し、人を増やし、人材を育てることこそ、我々地方の最重要課題です。拠点整備計画は、地域の課題を地域とともに解決する方針の(株)良品計画という大手企業と協力し、これらの課題解決に取り組むことができる計画です。挑戦し、今に投資しなければ成長どころか現状維持さえ困難です。町に必要な事業であると考え賛成いたします。

町民の声をより取り入れるべき

反対 佐藤利治議員

明確な透明性をもって契約までのプロセスが適切に実施され、入札業者に対して公平な競争の機会が与えられることが重要です。再審査、再入札も行わず決定事業者の値上げに対応する事は、業者への付度ではないかという意見も多数寄せられています。
今計画は差し戻した上で練り直し、しっかりと安全性や防災力を確保。道の駅多古の財務、雇用状況の安定を確認した上で計画段階から町民の積極的、公平な参画を呼びかけ改めて地元や地域に役立つ施設、拠点整備を目指すべきです。

将来を見据えて

賛成 菅澤博隆議員

過去の議会でも多く議論が繰り返されてきました。特にこども園の建設は賛否両論ありましたが、時の議会は冷静に判断し、建設を前進させました。今、こども園は、子育て支援の大きな役割を担っており、その判断が正しかったことは明白です。そして、今回の新拠点計画もまた、課題は残ってはいませんが、その課題解決は前に進みながらも可能です。今ここでこの提案をつぶしてしまつことは我々が選択すべき結論ではありません。

進めるべき理由は

反対 宇井伸征議員

このまま拠点整備計画を進める理由はいったどこにあるのでしょうか。①町は1億2000万円以上の町債を80年以上にわたり返済しなければならぬ。②株多古は20年以上の長期借入金返済を行わなければならない。③道の駅を結んでくれるかわからない。④道の駅は、いまだ継続的な赤字の状態。具体的な事業計画の説明もない。⑤テナント家賃の予想もない、契約内容も明確になっていない。毎年数千万円の赤字を計上するかもしれない。もっと、議論を尽くすべきです。

議会がつぶすべき議案ではない

賛成 佐藤幸三議員

この事業の業者選択については、応募3社による公募型プロポーザル方式がとられており、厳しい審査のもと澤工務店が選ばれたことについては問題無いといえます。拠点整備はデジタル田園都市国家構想総合戦略であり、この計画は、内閣府に採択されたものです。それが否決された場合には、再度同様の申請をしても採択されるのは非常に難しいハードルとなるでしょう。この事業を否決して、今後町に与えるマイナス影響は我々議員に将来にわたり禍根を残すことになるでしょう。

誰が見てもおかしい

反対 伊橋孝太郎議員

新拠点整備事業については賛成です。しかし、プロポーザルでの予定価格4億8000万円。この価格での工事を可能と判断した企業が、資材、人件費高騰を理由に見積もり。その提示額が約8億円、交渉を重ね5億6000万円、内容が気になり見積もり等の資料を請求。その内容を見て明らかになりました。ある設備工事は、約1000万円が2000万円。同じ設備内容なのに約1000万円の増。誰が見てもおかしいと感じると思います。現状では後世に胸を張って残せる事業ではないと思います。

町の発展、町民の喜びのために

賛成 高坂恭子議員

空港の強化策に伴い、思い出多いふるさとを移転しなければならない方々への配慮の中、国が予算をつけてくださったのです。納税義務者である町民の皆様を失望と落胆させてよいのでしょうか。この契約を締結し、4億8000万円を有効活用し、社会的信頼を得、町民の皆様方に発展と希望、生きがいと喜びを与える努力をすべきです。地元の業者の皆様のために可決をさせてこそ、今を語り将来を物語る議員としての行動ではないでしょうか。